

原発事業から撤退を！関電株主総会向け宣伝



6月26日、全労連近畿ブロックは関西電力の株主総会に向かう株主に向けて「原発事業から撤退を」「くらしと未来と環境を守ろう」と宣伝を実施しました。しかし、関電は原発の増設に向けた地質調査を発表しました。引き続き、「原発より自然・再生エネルギーに転換を」呼びかけましょう。

核兵器のない平和な世界を！国民平和行進



6月30日平和行進が奈良から引き継がれ、猛暑日が続く中、行進者の安全に配慮しつつ、府内各地で「核兵器のない平和な世界を、国は核兵器禁止条約の署名・批准を」と沿道にアピールしながら行進。7月7日には兵庫へ平和の願いのバトンを渡しました。

人事院近畿事務局への要請行動



大阪労連は7月10日に、人事院近畿事務局へ「中高年層をはじめ全ての職員について賃上げを行うこと」「非常勤職員の賃金の格差をなくすようにすること」などと要請書163通を提出し、参加者からは「物価高に負けないような賃上げをして欲しい」と公務員も民間も非正規も賃上げが必要と要請しました。

マクロ経済スライドはただちに廃止を



6月18日、大阪市地区協は「みんなが安心の年金制度をめざして」と題して、年金者組合大阪府本部の勝井副委員長を講師にミニ学習会を開催。「マクロ経済スライドの将来のためという偽善を見抜き、今を生きる人々に手厚い年金給付にすべき」と学ぶことが出来ました。

ろーれんフラッシュユ



大阪労働健康安全センターは6月28日と7月5日に「第31回安全衛生基礎講座」を開催。いずれの講座も講師と参加者の間で盛んな質疑応答が交わされるなど、意欲的な学習会となりました。

第1講座は、「働くことと健康・ジェンダーの視点を考えることを考える」をテーマに滋賀医科大学の准教授の北原照代さん、第2講座は、「安全衛生活動の意義と実践」をテーマに化学一般関西地本顧問の堀谷昌彦さん、第3講座は、「職場に心理的安全性を育てる」をテーマにNPOメンタルヘルスサポートの公認心理士の清水良子さんを講師に学習しました。

第4講座で清水さんは、「不安も恐れもない組織文化」あり、みんなが気兼ねなく意見を言うって、自分らしくいられる組織文化。職場の心理的安全性を育てるのに必要な要素として、感情の交

流、自己開示とフィードバック、相互理解、信頼感・助け合いが必要と話しました。参加者からは「誰もが快適に働ける職場をめざしたい」などの感想が寄せられました。

国労大阪会館を 研修・学習会などにご利用ください JR・天満駅 地下鉄・扇町駅 下車すぐ ◆身障者用昇降機設置 お申し込みは ☎06(6354)0661 〒530-0034 大阪市北区錦町2-2

第1講座は、「働くことと健康・ジェンダーの視点を考えることを考える」をテーマに滋賀医科大学の准教授の北原照代さん、第2講座は、「安全衛生活動の意義と実践」をテーマに化学一般関西地本顧問の堀谷昌彦さん、第3講座は、「職場に心理的安全性を育てる」をテーマにNPOメンタルヘルスサポートの公認心理士の清水良子さんを講師に学習しました。

第4講座で清水さんは、「不安も恐れもない組織文化」あり、みんなが気兼ねなく意見を言うって、自分らしくいられる組織文化。職場の心理的安全性を育てるのに必要な要素として、感情の交

流、自己開示とフィードバック、相互理解、信頼感・助け合いが必要と話しました。参加者からは「誰もが快適に働ける職場をめざしたい」などの感想が寄せられました。

流、自己開示とフィードバック、相互理解、信頼感・助け合いが必要と話しました。参加者からは「誰もが快適に働ける職場をめざしたい」などの感想が寄せられました。

流、自己開示とフィードバック、相互理解、信頼感・助け合いが必要と話しました。参加者からは「誰もが快適に働ける職場をめざしたい」などの感想が寄せられました。

流、自己開示とフィードバック、相互理解、信頼感・助け合いが必要と話しました。参加者からは「誰もが快適に働ける職場をめざしたい」などの感想が寄せられました。

誰もが快適に働ける職場を 第31回安全衛生基礎講座

大阪労働健康安全センターは6月28日と7月5日に「第31回安全衛生基礎講座」を開催。いずれの講座も講師と参加者の間で盛んな質疑応答が交わされるなど、意欲的な学習会となりました。



大阪春闘共闘委員会は、2025年春闘のたたかいかみんなどで考えていきたい。化学一般・海老原書記長は「組合員の生活実態や職場実態の掘り起こしをしっかりとやっていこうと分散会を実施。春闘では、資料・調査結果や生活実態をもとにアンケートなどにとりくんだ職場は、要求額が上がっている」。自治労連・仁木書記長は「現場の声・当事者の声を結集してたたかった結果、人勤待ちの当局の姿勢を労働組合が打ち破った。医労連・川成執行委員は「25春闘では、低い賃金の引き上げに向けて、事業所ごとにストライキ決議にとりくんだ」。河南地区協・南山議長は「最賃の意見書採択に向け、議員懇談会を開催、欠席した議員から『参加出来なくて

すみません」との声があった。幅広く声をかけていくことが大事だった」と報告がありました。その後、少人数グループに分かれて交流しました。参加者からは「話し合う場を労働組合がきちんと設けることが大切だと再認識することができた」「とりくみなどに参加してくれた人に組合に入って声をかけていきたい」との感想が寄せられました。

すみません」との声があった。幅広く声をかけていくことが大事だった」と報告がありました。その後、少人数グループに分かれて交流しました。参加者からは「話し合う場を労働組合がきちんと設けることが大切だと再認識することができた」「とりくみなどに参加してくれた人に組合に入って声をかけていきたい」との感想が寄せられました。

すみません」との声があった。幅広く声をかけていくことが大事だった」と報告がありました。その後、少人数グループに分かれて交流しました。参加者からは「話し合う場を労働組合がきちんと設けることが大切だと再認識することができた」「とりくみなどに参加してくれた人に組合に入って声をかけていきたい」との感想が寄せられました。

すみません」との声があった。幅広く声をかけていくことが大事だった」と報告がありました。その後、少人数グループに分かれて交流しました。参加者からは「話し合う場を労働組合がきちんと設けることが大切だと再認識することができた」「とりくみなどに参加してくれた人に組合に入って声をかけていきたい」との感想が寄せられました。

2025年春闘交流集会を開催

大阪春闘共闘委員会は、2025年春闘のたたかいかみんなどで考えていきたい。化学一般・海老原書記長は「組合員の生活実態や職場実態の掘り起こしをしっかりとやっていこうと分散会を実施。春闘では、資料・調査結果や生活実態をもとにアンケートなどにとりくんだ職場は、要求額が上がっている」。自治労連・仁木書記長は「現場の声・当事者の声を結集してたたかった結果、人勤待ちの当局の姿勢を労働組合が打ち破った。医労連・川成執行委員は「25春闘では、低い賃金の引き上げに向けて、事業所ごとにストライキ決議にとりくんだ」。河南地区協・南山議長は「最賃の意見書採択に向け、議員懇談会を開催、欠席した議員から『参加出来なくて

すみません」との声があった。幅広く声をかけていくことが大事だった」と報告がありました。その後、少人数グループに分かれて交流しました。参加者からは「話し合う場を労働組合がきちんと設けることが大切だと再認識することができた」「とりくみなどに参加してくれた人に組合に入って声をかけていきたい」との感想が寄せられました。

すみません」との声があった。幅広く声をかけていくことが大事だった」と報告がありました。その後、少人数グループに分かれて交流しました。参加者からは「話し合う場を労働組合がきちんと設けることが大切だと再認識することができた」「とりくみなどに参加してくれた人に組合に入って声をかけていきたい」との感想が寄せられました。

すみません」との声があった。幅広く声をかけていくことが大事だった」と報告がありました。その後、少人数グループに分かれて交流しました。参加者からは「話し合う場を労働組合がきちんと設けることが大切だと再認識することができた」「とりくみなどに参加してくれた人に組合に入って声をかけていきたい」との感想が寄せられました。

すみません」との声があった。幅広く声をかけていくことが大事だった」と報告がありました。その後、少人数グループに分かれて交流しました。参加者からは「話し合う場を労働組合がきちんと設けることが大切だと再認識することができた」「とりくみなどに参加してくれた人に組合に入って声をかけていきたい」との感想が寄せられました。

現場の声を集めて前進

参議院選挙では、自公政治へ厳しい審判が下されました。労働者は、30年以上も賃金が上がらず、企業利益のために痛みを押し付けられてきました。政府は、大企業の要望に沿って労働法制を何度も改悪し、その結果、低賃金・不安定雇用の非正規労働者は増大し、ワーキングプアとされる年収200万円以下の労働者は全体の2割にもなっています。さらに、石破政権のもとで、今も労働基準法の改悪が狙われています。これを阻止し、改悪をなんとしても阻止しなければなりません。

自公政治に厳しい審判 誰もが人間として尊重される社会を

大阪労連事務局長 嘉満 智子 選挙結果では、参議院で改憲勢力は3分の2を上回る議席数を維持する結果となりました。改憲議論を加速させようとする可能性もあり、改憲を許さないたたかいが重要となります。また、選挙戦では、外国人・移住者への差別と偏見をおおる言動や演説が公然と行われました。排外主義、外国人排斥、差別、ヘイトスピーチなどを許さないために声をあげ、全国の仲間とともに、誰もが人間として尊重される社会を実現させていきましょう。

参院選

選挙結果では、参議院で改憲勢力は3分の2を上回る議席数を維持する結果となりました。改憲議論を加速させようとする可能性もあり、改憲を許さないたたかいが重要となります。また、選挙戦では、外国人・移住者への差別と偏見をおおる言動や演説が公然と行われました。排外主義、外国人排斥、差別、ヘイトスピーチなどを許さないために声をあげ、全国の仲間とともに、誰もが人間として尊重される社会を実現させていきましょう。

大阪街宣懇第13回総会 街宣活動への干渉を許さず、言論・表現の自由を守り、広げよう！

8月1日、大阪街宣懇は第13回総会にて「北府中駅・東芝ビル配布不当逮捕事件」で実際に不当逮捕された「東芝の職場を明るくする会」の海老根弘光さんと塩田儀夫さんからお話を聞きました。お2人は1960年代に東芝に入社後、1995年から約30年、北府中駅で定期的に労働組合のビラ配布を続けてきました。警察官による干渉もありましたが特にトラブルなく続けてきました。ところが今年の2月20日、警察官が現場で、まず海老根さんを逮捕、その後塩田さんも逮捕されました。3時間後に釈放されましたが、この事業所では、原子力発電システムなどに関する研究や開発を行っており、重要情報を取り扱う労働者に組合の主張などの情報を伝えるビラを排除したかったようです。このような宣伝への警察権力の不当な介入に対しては萎縮せず、街頭宣伝の自由を守るために、大阪街宣懇へ必ず連絡して下さい。力を合わせて言論・表現の自由を守りましょう。